

『大和物語』からみる婚姻と居住形態

Marriage and residence form as seen from "Yamato Monogatari"

武富 理沙子
Risako Taketomi

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：平安時代，居住，婚姻
Key words : Heian period, Residence, Marriage

1. 研究目的

平安時代の婚姻史の研究では婚姻制度や結婚後の居住形態，一夫多妻説，正妻の確立等の研究が行われている．その中で私は物語における婚姻用語と居住形態の変化について注目した．調査対象として『大和物語』を選んだ理由は多様な男女関係と婚姻用語を見られることからである．

また、『大和物語』の婚姻用語の調査では高群逸枝氏や栗原弘氏が既に行っているが，確認するといくつかの用語の抜けが見受けられた．この用語調査を再度詳細に確認していくことで婚姻が意義があると考えられる用語を抜き出してどのような関係性があるのかを確認していく．そこから居住していることが確認できた段から居住までの過程を考察することや男女関係をパターン化し関係性について確認したい．

2. 研究実施内容

研究方法として『大和物語』から男女関係が見られる段が72確認された．そこから結婚・離婚用語を用例ごとにまとめ，どのような例があるのかをみる．また，男女関係と居住の結びつきについても確認し，考察する．

一、結婚・離婚用語について

住む	19例	懸想	3例
逢ふ	10例	まうく	3例
通ひ	7例	置く	2例
よばふ	7例	つく	1例
得る	5例		

図1：結婚用語用例

絶ゆ	6例
離れ	5例
来ず	4例
追い出す	2例

図2：離婚用語用例

結婚では、「住む」・「逢ふ」・「通ひ」・「よばふ」の順で多用され，当時の婚姻慣習の「通ひ婚」であることからわかる．

また，「住む」が用いられている段の男女関係は他の段の男女関係より良好であり離婚も少ないことがわかる．

離婚では，「絶ゆ」・「離れ」・「来ず」が多用されていることがわかる．結婚用語は離婚用語に比べて多種であり男女関係の多様な出会いが見られることがわかる．今回省いてしまったが，別れが見られる段では上にあげた離婚用語だけでなく和歌によって別れや疎遠を表現している段もある．

二、男女関係と居住について

一夫一妻	60 例
一夫多妻	11 例
多夫一妻	4 例

図3：男女関係の種類用例

図3は関係性の大体が一夫一妻であったが、一夫多妻・多夫一妻の例も見られた。一夫多妻と多夫一妻の例に注目して考える。

一夫多妻の例では、前妻後妻譚（うはなりこなみ）であり、9例中6例が後妻と離婚することが分かる。これは、前妻よりも夫との期間の短さや男が後妻への関心が一時的なものであること、前妻からの嫉妬によって追い出されてしまうといったことが原因として挙げられる。

また、夫が後妻の元へ通っても前妻と別れずに関係が継続している段も見られる。逆に夫と同居をしていることが見られる段では6例あり、多くが後妻と別れているが11段のみ後妻と結婚し、居住場所は前妻の元であることで女性が居住場所を提供する妻方居住であると考えられる。他に居住が見られる例では、夫は前妻が住む場所に後妻を連れてくるという話が2例ある。

64段では「平中、憎からず思ふ若き女を、妻のもとに率て来て置きたりけり。憎げなることもをいひて、妻つひに追ひだしけり。」この部分から前妻が後妻を恨み、後妻を追い出してしまう内容である。

141段では「よしいゑといひける宰相のはらから、大和の掾といひてありけり。これがもとの妻のもとに、筑紫より女を率て来てすゑたりけり。もとの妻も、心いとよく、今の妻もにくき心なく、いとよく語らひてゐたりけり。」上であげた段より前妻と後妻の仲が良好であることが伺える。この2例から前妻後妻の関係性を対比して見ると前妻後妻の関係にはやはり夫との

関係も重要であると考えられる。

多夫一妻の例では、4例中3例が夫とは別れず、関係を持った男性とは別れてしまう内容であることから男性とは一時の関係のみで夫とは別れることが出来ないものであると考える。

しかし後の1例は、貧困によって夫と別れ、妻が宮仕えしていた男性と結婚してしまう内容である。これにより、夫との関係に年月や場所の離れがあると離婚と見なされて妻は再婚してしまう例がある。

現時点での調査では『大和物語』のみである為、他の物語との比較や類似した点を探る必要がある。

3. まとめと今後の課題

『大和物語』の婚姻用語と男女関係に考察して、『大和物語』では一夫一妻だけでなく男女どちらかが複数の相手と関係を持つ段が多く見られることがわかった。また、居住について妻方居住の確認のみになってしまったのでより『大和物語』を再度確認する必要がある。現時点での調査では、対象作品が『大和物語』のみである為、広い視野での考察が出来なかった。今後は、他作品との比較として歌物語である『伊勢物語』や前妻後妻について『蜻蛉日記』等を見ていき、婚姻用語の用例と多様化について前妻後妻との関係性を知る必要がある。また、触れることが出来なかった和歌から男女関係について確認していきたい。そして、物語と当時の史料の差異があるのかを検討しなければならない。